

## 高等学校 聖書科 シラバス

### 「3年間のねらい、学習目標」

同志社の建学の精神であるキリスト教主義と創立者新島襄の思想を学び、キリスト教主義による世界観・人間観・生命観を基礎にしながら、創立者の言葉「良心の全身に充満した丈夫（ますらお：若者）」として成長することを目指す。

そのために3年間を通して、創立者の生涯、聖書とイエス・キリスト、および現代のキリスト教倫理を学ぶ。それにより、一人一人の自由で主体的な思考力・表現力・対話力などを涵養し、自己と他者の生命と尊厳を大切にして、現代社会において真に「善く生きる力」を育成する。

第1学年	教科書	なし
聖書 (1単位)	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会、ほか配布資料

### 学習到達目標

高校生最初の学年であるため、創立者新島襄の生涯を中心とした、同志社の建学の精神を学ぶ。高校からの入学者は初めて新島襄と出会い、内部進学生にとっては復習となるが、中学生とは違い、ただ伝記的に新島襄と同志社の歴史を学ぶのではなく、新島と自分の生き方を比較し、その時代背景を現代社会と重ねて見つめながら、同志社人としてふさわしく、かつ自分らしい生き方を見つけ出すことを試みる。

### 評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	創立者や建学の精神についての知識をしっかりと身につけ、それらを現代的な課題と結び付けつつ、自らの考えや人生観を形成する材料として用いることができる。	創立者の人生や学校の創立の歴史について学んだことを、自分の置かれている現代の文脈と重ねて考察し、それを適切な言葉で表現することができる。	創立者や建学の精神についての学びを現代的諸課題と結び合わせた上で、書籍やインターネット上のサイトなどを適切に利用しながらそれらについての情報を収集し、自らの視野を広げようと努めることができる。

### 学習方法

創立者新島襄を中心に、関連する人物の生き方、歴史的背景などを、配布資料などを使って共に読み解いてゆく。その上で、社会問題や哲学的なテーマについて個別に考えたり、グループでまとめたりする。その際、教師から一方的な解を与えることは基本的にせず、各々が自分なりの言葉で考え出すことに重点を置く。

成績評価は期末考査を中心としつつ、授業内に取り組むコメント提出や学期末に行うスピーチなどを、ルーブリック評価を基に平常点として算入する。また、本校中学校で行ってきたキリスト教会の礼拝に参加して報告する「教会探検隊」(教会レポート)、学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」などを自由提出にて受け付け、多面的な評価の材料とする。

### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点・補講等
1 学 期	1. 建学の精神を学び、自らの生き方を考える (1)	1. 新島襄の誕生 2. 新島襄の少年時代・青年時代	【評価の観点】 ・同志社についての学びに対する関心・意欲・態度

2 学 期	2. 建学の精神を学び、自らの生き方を考える (2)	3. 新島襄の脱国 4. 新島襄の留学 5. 新島襄の帰国 6. 同志社の創立・新島襄の結婚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立者や建学の精神についての最低限の知識</li> <li>・自らの置かれている社会的文脈を客観視して考察する力</li> <li>・自らの考えを持ち、言語化する力</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <p>1、定期考査の成績 定期考査においては、授業で取り上げられたトピックについての知識の定着、理解度を問う。</p> <p>2、平常点</p> <p>(1) 授業への関心・態度 (2) コメントなどの提出状況とスピーチの完成度、またそれらの批評性 (3) 教会探検隊、礼拝レポート</p>
3 学 期	3. 建学の精神を学び、自らの生き方を考える (3)	7. 新島襄の死 8. 新島襄の遺言 9. 同志社大学設立の旨意について	

第2学年	教科書	なし
聖書 (1単位)	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会、 富田正樹『キリスト教との出会い 新約聖書』日本基督教団出版局、 ほか随時プリントなどを配布する

### 学習到達目標

「現代社会とキリスト教」というテーマで、世界の人びとに影響を保ち続けるキリスト教を中心に、社会に広く目を向け、様々な問題と自分との繋がりを見出し、それに対する自分なりの考えを言語化する作業に慣れることを目指す。

同志社の建学の精神であるキリスト教と、それと関わりの深い一神教の（ユダヤ教、イスラーム）の世界に触れ、その文化や価値観を学び、それらが現代社会における人間の生き方とどう関わるのかを知る。またそれにより、生徒自身の世界観や人間観を深め、自己の生き方を考えるための授業とする。

### 評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	キリスト教を始めとする伝統的な世界宗教についての知識、および現代の社会問題についての基礎的な知識を得るための調査方法を身につけている。	問題意識を持って宗教と社会問題を関連付けて調査し、何が自分たちにとって重要なのかを判断し、論文としてまとめ、他者に論理的にわかりやすく伝えることができる。	興味を持って文献に当たって調査し、インターネットを補足的に利用し、調査内容にしたがって自分の社会における生き方まで積極的に考えて行動に結び付けるような態度を身につけている。

### 学習方法

文献、新聞記事データベース、インターネットによる資料などを活用した調べ学習を中心とする。独創的なテーマの設定、調査の目的、調査の方法、調査、考察などによる論文作成を中心に、自分の調べたいことを自分で見つけ、調べ、自分自身の考えを言語化する練習を行う。そのことにより、キリスト教（およびユダヤ教、イスラーム、仏教などの伝統的世界宗教）が、どのようなメッセージを投げかけているのかを知り、自分自身の考えと照らし合わせていく。

成績評価は論文提出を中心とする。また、自由提出の「教会探検隊」、「礼拝レポート」は高校1年生

と同様、継続して受け付ける。

**年間シラバス** (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 導入：授業の方法説明 2. 図書館の活用方法 3. マインドマップ作成 4. テーマ設定 5. 論文作成	1. キリスト教に関連した調査論文を作成する趣旨を理解する。 2. 図書館の活用方法や新聞記事データベース、論文検索などの使用方法を理解する。 3. 発想を広げ、論文のテーマを設定する。 4. 実際に調査を行い、論文を作成する。	<b>【評価の観点】</b> ・宗教学および社会問題一般への関心・意欲・態度 ・宗教一般についての最低限の知識 ・問いを自ら見つけ、調べる能力 ・調べたことを基に自分自身の生き方を見つめ直す力
2学期	1. テーマ設定 2. マインドマップ作成 3. 論文作成	1. キリスト教と諸々の社会問題について、1学期とは異なるテーマで論じるための準備をする。 2. 1学期に学んだ調査方法を活用し、発想を広げ、論文のテーマを設定する。 3. 実際に調査を行い、論文を作成する。	<b>【評価方法】</b> 各学期末に提出する論文によって評価する。テーマの独創性、調査の緻密さや論理性、考察の独自性、使用した資料が豊富であるかなどを基準とする。 2. 平常点 (1) 課題などの提出状況 (2) 教会探検隊、礼拝レポート
3学期	1. テーマ設定 2. 奨励作成	1. ショート礼拝の奨励原稿を自分で作ってみることにによって、聖書と自分の生き方を関連付け、それを他者に伝えるための準備をする。 2. 1学期に学んだ調査方法を活用し、発想を広げ、奨励のテーマを設定する。 3. 実際に原稿を作成する。	

第3学年 聖書 (1単位)	教科書	なし
	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会ほか随時プリントなどを配布する

**学習到達目標**

「宗教と生命倫理」というテーマで、生命にまつわる様々な現代社会事象について知り、それぞれの問題に関して多様な観点があることを学ぶ。それらを通して自分なりの意見をまとめ、他者の考えにもよく耳を傾けることで、対話によって視野を広げることを目指す。また、自分の意見の言語化、文章化に習熟する。

前半は主に「死（脳死、尊厳死、葬送儀礼など）」、後半は主に「生（生殖補助医療、出生前診断など）」「性（ジェンダー、セクシュアルマイノリティなど）」について学ぶ。これらの学びを通して、全ての人間の命を尊厳あるものとして認識し、これからの人生や社会との関わりを豊かにすることを目指す。

**評価の観点**

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	いのちを巡る現代的な諸課題についての知識をしっかりと身につけ、それらを多様な観点から批判的に検証し、自らの考	いのちを巡る問題について、宗教的な視点を含む多様な観点を踏まえた上で批判的に考察し、自分なりの価値観に基づい	いのちを巡る問題について関心を持ち、書籍やインターネット上のサイトなどを適切に利用しながら様々な意見を収集

えを深める材料として用いることができる。	た意見を適切な言葉で表現することができる。	し、自らの視野を広げようと努めることができる。
----------------------	-----------------------	-------------------------

### 学習方法

テーマごとに教員が基本的な知識、問題点を提示する。必要に応じて随時レジュメや資料を配布する。「コメントシート」用紙による自分の意見の記述、口頭での質問や意見交換を通じて、自分の意見の言語化、文章化、他者の意見を注意深く聴き取る訓練、それを通して自らの考察をさらに多面的に検証し、深めていく経験を積む。

成績評価は期末考査を中心としつつ、コメントの批評性、思考力、表現力などを平常点として評価し、算入する。期末考査では、その学期に扱ったテーマに関する知識の定着を問う筆記試験を行う。また、自由提出の「教会探検隊」、「礼拝レポート」は高校1年生、2年生と同様、継続して受け付ける。

### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 概論「宗教と生命倫理」 2. 「死」について考える	1. いのちは誰のものか、いのちの決定権 2. グリーフとグリーフケア 3. 宗教における死、葬送儀礼 4. 脳死臓器移植、尊厳死 5. 自死、死刑制度	<b>【評価の観点】</b> ・いのちを巡る諸課題への関心・意欲・態度 ・宗教的な観点についての最低限の知識 ・自らの考えを持ち、言語化する力 ・自らの考えとは異なる主張に触れ、それを批判的な視点として活かす力
2 学期	3. 「生」について考える 4. 「性」について考える	1. 不妊、生殖補助医療 2. 出生前診断、人工妊娠中絶 1. セックスとジェンダー 2. セクシュアルマイノリティ	
3 学期	5. 大学進学に向けて	1. 多様な人間の共生 2. 自分自身について考える	<b>【評価方法】</b> 1、定期考査の成績 定期考査においては、授業で取り上げられたトピックについての知識の定着、理解度を問う。 2、平常点 (1) 授業への関心・態度 (2) コメントシートなどの提出状況とその批評性 (3) 教会探検隊、礼拝レポート